

一本の動画から

(原文)

本石 心 (13 歳)

京都府

京都先端科学大学附属中学校

約 2 年前、小学 6 年生の頃私は、「人を笑顔にできる看護師になる」と決意しました。それは、命とは何か、自分の答えが出たからです。

小学 6 年生の頃、看護師はどんな事をするのかそれは理解していたのに一つだけ分からない事がありました。

「命とは何か」考えればたくさんでてくるのに、答えにたどり着けないというものでした。私は看護師になるには答えを出さないといけないと調べていろいろな動画をみて考えました。その時、1 本の動画に出会いました。

余命 3 ヶ月という短い命を最後まで笑顔で大切にする 4 歳の女の子の話です。1 歳 5 力月の時、神経芽腫と診断され小さいながら何度も手術や抗がん剤治療にたえている姿はとても感動しました。2 年以上にもおよぶベッド生活のすえに、お母さんの手をにぎりながら空へ昇って行かれました。

私はそのシーンで大号泣しました。「かわいそうだな」そう思ったのと同時に「尊敬」の気持ちがありました。最後まで周りの人達を笑顔にしていたし目一杯はしゃいで満面の笑みで遊んでいたからです。自分だったら、なんで私が…と違ってずっと泣いたりしていると思います。なので本当に尊敬しました。そして、その動画を見終わった時命とは何かの答えができました。

「命とは周りの人を幸せに笑顔にする物」これが私の答えです。自分が笑顔であれば自然と周りも笑顔になる。その笑顔は人を幸せにする物。そう思い、この答えができました。

そして私ができること。それは「看護師になる」ということです。病院に来た時、一番にはげましてくれるのは看護師さん。誰とでも平等に接してくれる、そんな優しい人になりたいと思いました。

私が看護師になりたい理由。それは、動画を見たからというのがありますが、看護師さんの心優しい対応と笑顔に圧倒され自分もなりたいたと思ったからです。

私が生まれて 1、2 年ぐらいのとき、私は股関節の治療のため病院に入院していました。その時の記憶はあまりないですが、唯一覚えていることがあります。お母さん達が夜中家に帰って行った後、1 歳の私は泣いていたのでしょう。その時、看護師さんが一緒に遊んであげてくれました。それだけは忘れません。

そして私が一番最後に言いたかった事。「命とは周りの人を幸せに笑顔にする物」「自分ができる事

は、将来看護師になって笑顔いっぱいの世の中にする事」これが私の言いたいことです。